

統合分野 8科目 8単位 195時間

包括的看護の視点で、急速に変化する保健医療福祉システムや社会のニーズに対応できる能力が養えるよう、あらゆる場での看護活動、組織における看護師の役割を理解し、臨地実践に即した看護を学ぶ。

《在宅看護論》 Home Nursing

地域で、生活するあらゆる健康レベルとライフステージにある個人・集団の健康問題を総合的に理解し、在宅における看護活動を実践できる基礎的知識・技術・態度を習得する。

科目名	在宅看護概論 Introduction		講師名	川崎 寛子	
学年	2年	講義時期	前期	単位・時間数	1単位 (15)

講義のねらい	対象となる人々の必要性に応じて、広い視野で看護を提供するために在宅看護活動の対象および場を理解し、継続看護の重要性と在宅での看護者の役割について学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会背景から在宅看護を必要とされる要因が理解できる。 2. 在宅看護の利点と限界をふまえたうえで、在宅看護の目的が理解できる。 3. 対象を理解し、在宅看護のあり方を考えることができる。 4. 他職種との協働のあり方を知り、看護師の役割について考えることができる。 5. 市町村の介護保険サービス内容を調べ、今後のありかたを考えることができる。 			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護とは、在宅看護の位置づけ 2. 在宅看護の歴史の変遷 3. 在宅看護活動 <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護の特性 ②在宅看護の担い手と活動内容 ③他職種との連携と看護師の役割 ④訪問看護活動 4. 在宅看護の対象者 <ol style="list-style-type: none"> ①療養者：高齢者、難病患者、障害者、小児 ②家族 ③地域 5. 在宅療養を支援する社会資源 <ol style="list-style-type: none"> ①障害者福祉制度 ②高齢者福祉制度 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険 ・介護休業法 <p>*在宅療養継続のための具体的なサービス内容、利用状況について、グループワークで調べる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 現代は、病気や障害をもっていてもできるだけ地域で生活することが求められています。在宅と病院とでは何が違うのでしょうか。在宅療養の現状や問題点、療養者とその家族にとって望ましい療養生活とはどのようなものなのでしょうか。この授業を通して考えていきましょう。</p> </div>			
評価方法	筆記試験	グループワーク	試験予定	2年次6月
参考書	統合分野 在宅看護論 (医学書院)			
その他	各在宅援助論受講には、本科目の合格が必要である。			

在宅看護論

科目名	在宅援助論 I Home Nursing I (総論)			講師名	黒崎 恵子
学年	2年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位 (15)

講義のねらい	在宅での療養者や家族の生活を総合的に捉えるための在宅看護の展開の視点、特徴を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 療養者と家族のもつ看護上の課題を見出し、訪問看護師として支援すべき事柄、看護介入の具体的な方法、評価のプロセスを理解できる。 現在の社会情勢における在宅看護の位置づけと問題点が理解できる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 在宅看護における看護過程の特徴 在宅看護におけるアセスメントの視点 看護の継続性、退院指導のあり方 訪問看護の目標設定 在宅での看護過程の実践 介護保険法の事例への適応 現在の在宅看護の問題 <p>※本授業は、JCHO東京新宿メディカルセンターの訪問看護認定看護師（認定看護師についてはP49参照）である黒崎先生からの講義となります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 人間の生活、特に人生の先輩が生きてこられた時代の背景を知ること。また、年長者との関わりの機会をもつことなど心がけてください。 同時に同年代以外の世代の人と会話をする機会をもつことも心がけ、実践してみてください。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	試験予定	2年次2月		
参考書	統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
その他	本科目の受講には、在宅看護概論の合格が必要である。				

在宅看護論

科目名	在宅援助論Ⅱ 技術 Home NursingⅡ		講師名	川崎 寛子	濱中 康治
				内海 絵笛	小森 さなえ
学年	2年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位 (30)

講義のねらい	療養者の生活の場での望ましい援助関係を築くための基本と、対象の状態に合わせた在宅での看護技術を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅において療養者および家族と望ましい援助関係を築くための基本が理解できる。 2. 日常生活を中心とした在宅看護援助の基礎知識と看護技術の工夫について考えることができる。 3. 在宅で医療機器の使用・医療処置が必要な療養者の援助について考えることができる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護における看護者の基本姿勢 2. 訪問看護場面におけるコミュニケーション技術 3. 在宅での感染予防 4. 在宅における医療事故防止 5. 在宅での緊急時の対応 6. 在宅における基本的生活行動への援助技術（グループワーク） <ol style="list-style-type: none"> ①基本的生活行動への援助技術の特徴 ②生活環境 ③食事 ④排泄 ⑤清潔 ⑥睡眠 7. 在宅で医療処置を受けている場合の看護 <ol style="list-style-type: none"> ①褥瘡管理 ②在宅経管栄養 ③在宅中心静脈栄養法 ④膀胱留置カテーテルの管理 ⑤在宅酸素療法 ⑥在宅人工呼吸管理 <p>〔森田先生担当 6時間〕 動作の介助方法（寝返り・起き上がり・座位保持・立ち上がり） 歩行、移動自助具（技術演習）</p> <p>〔内海先生担当 2時間〕 作業療法の定義 作業療法の対象 作業療法の評価</p> <p>〔小森先生担当 2時間〕 コミュニケーション障害がある人への対応</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>1～5の授業では、訪問看護師が実際の在宅の場面で、基本的な看護技術や、複雑な医療技術を介護者とともにどのように実践していくのか学びます。</p> <p>また、近年は高齢化などにより在宅で医療処置を受ける療養者の方が増えていきます。療養者や家族が安心して在宅で医療処置を受けるために看護師としてどのように関わっていく必要があるのか学んでいきましょう。</p> </div>				
評価方法	筆記試験	グループワーク	試験予定	2年次2月	
参考書	統合分野 在宅看護論（医学書院）				
その他	本科目受講には、在宅看護概論の合格が必要である。				

在宅看護論

科目名	在宅援助論Ⅲ	①事例演習：高齢者		講師名	①古畑 聡子
	Home Nursing Ⅲ	②事例演習：終末期			②川崎 寛子
学年	①3年	講義時期	①前期	単位・時間数	①1単位(30)の内の(15)
	②3年		②後期		②1単位(30)の内の(15)

学習のねらい	在宅看護の看護展開の特徴を踏まえ、在宅での代表的事例を用いて演習を行い、在宅における看護の実際について考える力を養う。				
学習目標	<p>①高齢者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者世帯で介護危機状況にある療養者の問題点を考えることができる。 2. 療養者および家族が在宅療養を継続できるよう、看護師の役割と社会資源の活用が理解できる。 <p>②終末期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における終末期看護のあり方について考えることができる。 2. 在宅終末期の療養者を支える家族と医療福祉スタッフの役割と問題点、社会資源の活用が理解できる。 				
講義内容	<p>①高齢者</p> <p>高齢者世帯で慢性疾患を抱えている療養者が在宅介護危機状況にある事例を通し、介護保険をはじめとして、社会資源の活用の実際をグループで考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【担当講師からのメッセージ】 今、団塊世代が後期高齢者を迎える2025年問題の対策として、包括ケアを推進していく必要があります。事例を通し、在宅ケアのあり方、包括ケアとはどういうことか考えていきたいと思えます。</p> </div> <p>②終末期</p> <p>終末期の療養者への看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期とは 2. 在宅終末期看護の条件 3. 在宅終末期看護の展開 4. 在宅での看取りの技術 5. 疼痛管理 6. 在宅終末期の看護師に求められる資質 7. 事例展開（グループワーク） 				
評価方法	①レポート評価と平常点	提出期日	①3年次9月		
	②レポート評価と平常点		②3年次11月		
参考書	統合分野 在宅看護論（医学書院） 看護診断ハンドブック（医学書院）				
その他	本科目の受講には、在宅看護概論の受験が必要である。				

《看護の統合と実践》

社会が求める看護を実践するために、今までの学習を基礎として、医療安全に対する認識を高め、倫理的判断能力、自己研鑽能力を高めることができる。看護技術を統合し、実践できる力を養う。

科目名	統合看護 I Integrated Nursing I (看護管理)		講師名	野月 千春
学年	3年	講義時期	後期	単位・時間数
				1単位 (15)

講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師がよい看護を提供できるよう、円滑な業務遂行のための看護職員や設備、環境の管理のあり方について学ぶ。 2. 看護職としてどのように社会と関わっていくのか考えを深める。 			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における看護部門の位置付け、役割、機能を学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。 2. 他職種と協働して医療チームを組み、患者を支える大切さを理解する。 3. 組織の仕組みを知り、質の高いケアを実践するための柔軟性のあるメンバーシップ、リーダーシップを理解する。 			
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の発展とその実際 2. 看護部門の組織と運営 3. 看護管理部門の役割と管理の実際 4. 各看護単位の看護管理業務 5. スタッフナースの管理的役割 6. 医療事故・看護事故への対処 			
評価方法	①筆記試験	試験予定	①3年次11月	
参考書	新体系看護学全書 別巻14 看護管理/看護研究/看護制度 (メヂカルフレンド社)			
その他				

看護の統合と実践

科目名	統合看護Ⅱ (医療安全)	講師名	田村 浩子 松田 久子 山口 亜由美
学年	3年	講義時期	通年
		単位・時間数	1単位 (30)

講義のねらい	看護職として医療安全に対する認識を高めることをねらいとする。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する基礎的知識が理解できる。 2. 事例検討を通し、事故が起きる要因と事故防止を考えることができる。 3. 自己の傾向（思考・判断・行動）を知り、対策を考えることができる。 4. 組織として、感染管理を含む安全管理にどのように取り組んだらよいのか考えることができる。 		
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全を学ぶことの重要性 2) 看護の中での医療事故 2. 日本の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国の取り組み 2) 組織的取り組み 3) 医療訴訟の現状 3. 事故防止の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療事故の理解 2) ヒューマンエラー 3) 看護における時期緒の構造とその防止 4) リスクセンスとKYT（危険予知訓練） 4. 事故防止の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療の補助業務に伴う事故防止 2) 療養上の世話にこえる事故防止 3) 業務領域を超えて共通する間違いとその対策 4) 医療事故とコミュニケーション 5) 事故後の対応 5. 事故分析の演習 <p>RCA（根本原因分析）を用いてのグループワーク</p> 6. 医療関連感染対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療関連感染とは何か 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 感染予防対策の実際（手指衛生、防護用具） 4) 院内感染予防対策委員会の役割 <p>*東京新宿メディカルセンター所属の医療安全管理者である田村先生と感染管理認定看護師（認定看護師についてはP49参照）である山口先生の講義です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>臨床では、医療事故には至らなかったが、もう少しで事故になったであろうという状況はたくさんあります。人がミスを起こすのはなぜかを理解したうえで、医療事故を防ぐためにどのようなことが大切なのか、この授業で学んでください。</p> <p>演習も取り入れ、「誰でも事故を起こす可能性がある」ことを認識できるようにしたいと考えています。</p> </div> 		
評価方法	筆記試験	試験予定	3年次11月
参考書	統合分野 医療安全（医学書院）		
その他			

看護の統合と実践

科目名	統合看護Ⅲ Integrated Nursing Ⅲ 災害看護・国際協力		講師名	鈴木 諭子	
学年	3年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位 (15)

講義のねらい	災害における健康問題、災害医療、看護に関する基礎知識を学ぶ。 医療・看護の国際協力の仕組みと国際医療、看護活動を学ぶ。			
学習目標	<p>①災害医療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害体制と災害救助活動の概要を理解できる。 2. 災害各期の看護活動を理解できる。 <p>②国際協力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の保健医療福祉の現状を理解でき、問題点を考えることができる。 			
講義内容	<p>①災害医療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義・災害看護の定義と役割 2. 災害サイクルと災害サイクル別看護活動 3. 災害の種類、災害時期別健康問題 4. 日本の災害医療 5. 災害看護の役割と実際 <p>②国際協力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸外国の保健医療福祉の今日的課題 2. 国際保健医療機関の組織と機能 3. 日本の国際協力の実際 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【担当講師からのメッセージ】</p> <p>最近、国内外で大きな災害が増えています。災害は誰にでも起こり得ることです。看護者としてだけでなく、一般市民としても、災害への基本的知識を学び、自分たちの災害に対する備えについても見直す機会としてください。また、近年国内だけでなく、海外にも目を向け看護を考える必要性が求められています。保健医療に関する国際協力のしくみを理解しましょう。</p> </div>			
評価方法	筆記試験	試験予定	① 3年次11月	
参考書	未定			
その他				

看護の統合と実践

科目名	看護技術統合演習 Practice of nursing Arts		講師名	専任教員	
学年	3年	講義時期	後期	単位・時間数	1単位 (30)
学習のねらい	年齢や病態、背景の異なる複数の患者の状態を把握し、個々のニーズに合わせ、その場その場での優先度を判断し、安全に看護を提供する大切さを学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の病態生理、治療、処置、看護を学習し、看護技術の方法の根拠、留意点を明確に出来る。 2. 患者の状態から優先順位を判断し、行動計画（看護計画）が立案できる。 3. 自分のおかれた状況と患者の状態を見極め、行動計画を変更し、安全に実施できる。 4. メンバーと連携をとり、必要に応じて協力を求めることができる。 5. 実施したこと、途中経過等を適宜リーダーに報告できる。 6. 自分自身の行動を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。 				
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 事例の病態生理、治療・処置、看護の学習、看護技術の根拠・留意点の明確化 3. 学習の発表会 4. 複数患者を受け持ったときのスケジュールの立て方と多重課題への対応のポイント（講義） 5. 行動計画立案 6. 実技演習 7. まとめ <p>* 2、3、5、6、7はグループワークで進めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【受講にあたって】 V期実習の統合看護実習や就職に向けて、複数患者を受け持って多重課題にどのように対処したらよいか経験する授業です。複数の患者を受け持つということは、患者等の学習も今までより多くの時間をかけなければいけません。学習の仕方も学んでください。 初めて一人で2～3人の患者を受け持ったり、リーダー業務をして、慌ててしまうかもしれません。みんなでアドバイスしあいながら、どう行動したらいいのか考えていきましょう。</p> </div>				
評価方法	筆記試験、グループワークの発表と平常点	試験予定	3年次11月		
参考書	なし、プリントを配布予定				
その他					

3年間の看護技術、事例演習のグループワーク予定

学年	月	基礎分野 I		専門分野 II									統合分野		
		基礎看護技術Ⅶ／ 基礎看護技術統合演習	看護研究Ⅰ／ 基礎	成人臨床看護Ⅳ／ 回復期／ 事例	成人臨床看護Ⅳ／ 終末期／ 事例	成人臨床看護Ⅴ／ 急性期／ 事例	成人臨床看護Ⅴ／ 慢性期／ 事例	老年臨床看護Ⅲ／ 急性期／ 事例	老年臨床看護Ⅲ／ ゼミ	小児臨床看護Ⅲ／ 急性・慢性期／ 事例	母性臨床看護／ 正常分娩／ 事例	在宅援助論Ⅲ／ 高齢者／ 事例	在宅援助論Ⅲ／ 在宅終末期／ 事例	看護技術統合演習	
1 年次	4月														
	5月														
	6月														
	7月														
	8月														
	9月	●													
	10月	●													
	11月														
	12月														
	1月														
	2月				●		●								
	3月														
2 年次	4月														
	5月														
	6月			●		●									
	7月														
	8月														
	9月		●												
	10月		●				●		●		●				
	11月		●		●		●		●		●				
	12月						●		●		●		●		
	1月						●		●		●		●		
	2月				●		●		●		●		●		
	3月														
3 年次	4月														
	5月														
	6月										●				
	7月														
	8月														
	9月										●	●	●		
	10月											●	●		
	11月											●	●		
	12月														
	1月														
	2月														
	3月														